※保証を有効にするため、ユーザー登録が必要です。

FRコクバラ

特許・実用新案取得済　M0019-10　'15. 3月版

エアーコンプレッサー専用ドレン油水分離装置

ドレンデストロイヤー取扱説明書

SD37B型　SD75B型　SD150B型　SD220B型

この度はFRコクバラドレンデストロイヤーをお買上げくださいまして有難うございます。
本装置は、モータ・ポンプ等の電気機器を一切使用しないで、特殊フィルターのみでドレン中に含有している油分を5ppm以下の清水にする画期的な油水分離装置です。

本装置を安全にご使用いただくために

安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前に『取扱説明書』を最後までお読みください。

ご使用上の注意事項、本装置の能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しくご使用くださるようお願いいたします。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

⚠警告・⚠注意の意味について

ご使用上の注意事項は「警告」・「注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

⚠警告
1.取付、保守、点検、修理等の作業時は、元電源を”OFF″にしてから行ってください。(寒冷地仕様の場合)
2.エアーコンプレッサーのドレン水以外の流体には使用しないでください。
3.処理水は動植物の飼育用には絶対に使用しないでください。
4.処理水は飲料水には絶対使用しないでください。
5.排水にあたっては、地域・水域によって排出する水質の汚濁基準が異なりますので、詳細については設置される地域の行政機関に問い合せください。

⚠注意
1.仕様書記載の使用圧力、使用温度範囲、電源電圧(寒冷地仕様の場合)で使用してください。
2.直射日光や直接熱風のあたる場所には設置しないでください。
3.処理水は関連する法令に従い充分管理の上、排出してください。

保　証　書

この度は当社の商品を御買い上げご採用下さいまして誠に有難うございます。当社では製品の管理には万全を期しておりますが、万一の為に下記の規定により御買い上げ頂きました商品の保証をいたします。御使いになる前に取扱い説明書をよくお読みいただき正しい適切な設置、そして保守管理を行ない、いつまでもご愛用下さいますようお願い申し上げます。

製品保証規定

※保証を有効にするため、ユーザー登録が必要です。

正常な使用状態で納入後1年以内に故障、または破損した場合に無償で修理いたします。
ただし、次のような場合は保証の対象外であり、有償修理扱いとさせていただきます。
※修理に出す場合は、購入店または当社にご返送下さい。

- 本取扱説明書に記載された条件を越える過酷環境下（異常電圧・異常温度・粉じんの多い所など）で使用された場合。
- 規定の圧力（最高圧力）以上の圧力で使用された場合。
- 製品、および部品を無断で改造された場合。
- 取扱説明書に記載した注意事項および点検、整備を順守されなかった場合。
- 火災・地震・水害・および盗難などの災害による故障。
- AB槽及ミスト除去フィルターなどの消耗品。
- 修理等にて弊社にお送りいただく際の送料並びに返送料は別途申し受けますのでご了承下さい。

詳細につきましては、お買い求めの販売店又は、弊社営業部までお問合せください。

※本製品の故障または不具合に伴う産業補償、営業補償などの二次的損害に対する保証はいたしません。
※本保証は、日本国内にて使用される場合に限り適用されます。

ー　目　　次　ー

1.現品の確認 ---- P.2

2.各部の名称とその目的 ---- P.2-3

3.仕　様 ---- P.4

4.フローシートとドレン処理工程 ---- P.4-5
SD37B型 ---- P.5
SD75B型 ---- P.5
SD150B型 ---- P.5
SD220B型 ---- P.5

5.取付注意事項 ---- P.6
（1）設　置 ---- P.6
①ドレンデストロイヤー（SD型） ---- P.6

（2）配　管 ---- P.6

6.ドレントラップ取付注意事項 ---- P.7
（1）コンプレッサーが1台の場合 ---- P.7
（2）コンプレッサーが複数台の場合 ---- P.8
（3）ドレンデストロイヤー不適当な配管事例 ---- P.9

7.運転 ---- P.10
（1）本機の各バルブ開閉確認 ---- P.10
（2）各接続のドレントラップ、バルブ開閉及び電源確認 ---- P.10
（3）運転時圧力計の確認 ---- P.10

8.ＡＢ槽のフィルターエレメント寿命判定 ---- P.10-11

9.保守・点検 ---- P.11-13

AB槽のリサイクルについて ---- P.14

10.故障とその対策 ---- P.14

11.寒冷地仕様ドレンデストロイヤー ---- P.15-16

12.参考資料 ---- P.16

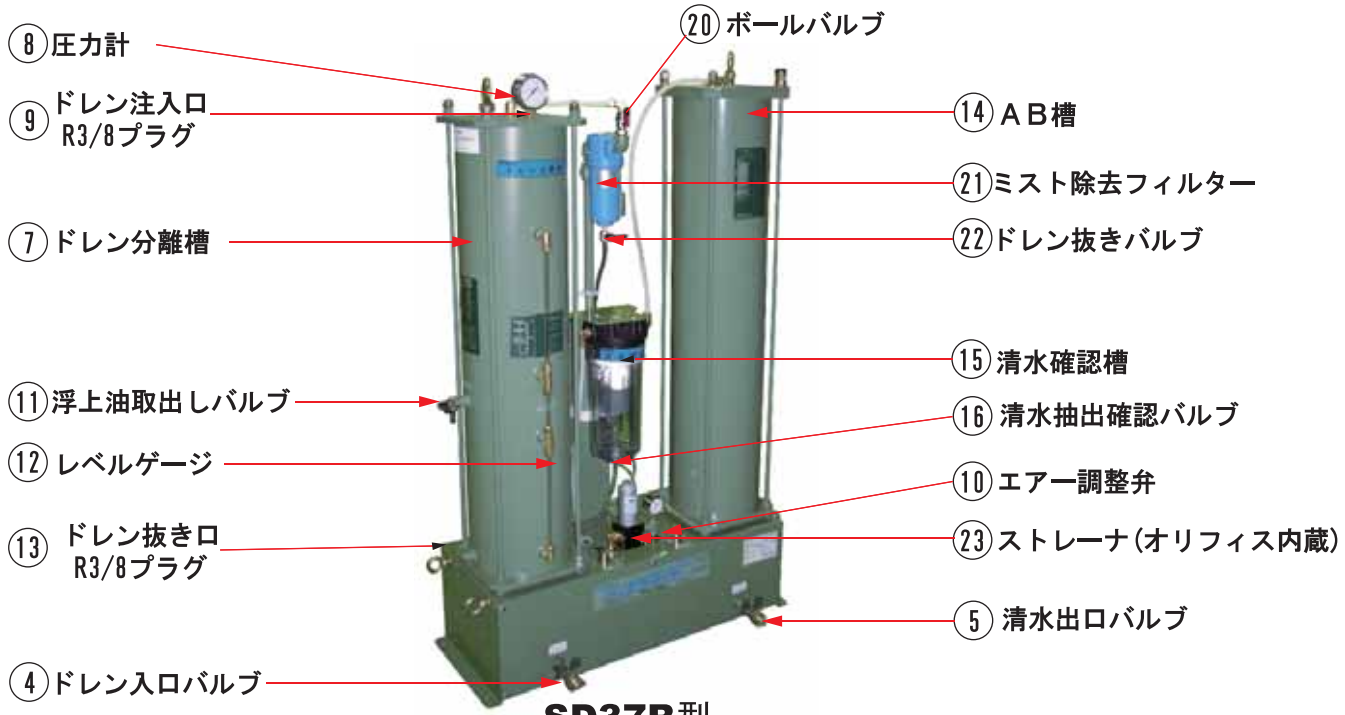
1． 現品の確認

ご注文の製品と相違ないか。輸送中の事故で破損していないかお調べください。
万一不具合な所がありましたらご注文先にご照会ください。

2． 各部の名称とその目的

(1) ドレンデストロイヤー

（注）〇番はSD37B型の製品図面に合わせています。



SD37B型

SD75B型

SD150B型

SD220B型

■ SD37B型の各部名称とその目的

項　番	名　　称	目　　的
4	ドレン入口バルブ	各機器からのドレンをドレン集合管にまとめて入口バルブに配管します。（ドレン入口　Ｒｃ１/２）
5	清水出口バルブ	処理水排水口（清水出口　Ｒｃ１/２）
7	ドレン分離槽	流入したドレンを浮上油とエマルジョンに分離する前処理槽。
8	圧力計	ドレントラップが作動した時のドレン分離槽内圧力確認用。
9	ドレン注入口プラグ（R3/8）	手動でドレンを入れる場所。投入方法は弊社にお問い合わせください。(注)コンプレッサー以外の廃液は入れないでください。
１０	エアー調整弁	ドレン分離槽内の圧力を調整するためのエアー放出弁。（サイレンサー付、調整不要）
１１	浮上油取出しバルブ	浮上油（なま油）がXラインからＹラインまで溜まったら、このバルブより抜き取ります。（SD220B型の分離槽Bは右から2番目のバルブ）
１２	レベルゲージ	ドレンの水位と浮上油の水位を確認するゲージ。
１３	ドレン抜き口プラグ（R3/8）	ドレン分離槽内のドレンをすべて排出する時に使用します。（SD220B型の分離槽Bは右から3番目のバルブ）
１４	ＡＢ槽	エマルジョンの破壊、分散油の粗粒化、油分の吸着除去を行い、油分濃度5ppm以下に処理します。
１５	清水確認槽	処理後の清水を目視で確認できます。
１６	清水抽出確認バルブ	清水確認及びサンプリング採取用バルブ。
２１	ミスト除去フィルター	エアー調整弁より放出するエアーに含まれるドレンのミストを除去します。
２２	ドレン抜きバルブ	ミスト除去フィルターに溜まったドレンを抜く時に使用します。※抜いたドレンには油分が含まれていますので別処理してください。
23	ストレーナ（オリフィス内蔵）	AB槽入口の圧力及び流量調整用

3．仕　様

(1) ドレンデストロイヤー(SD型)

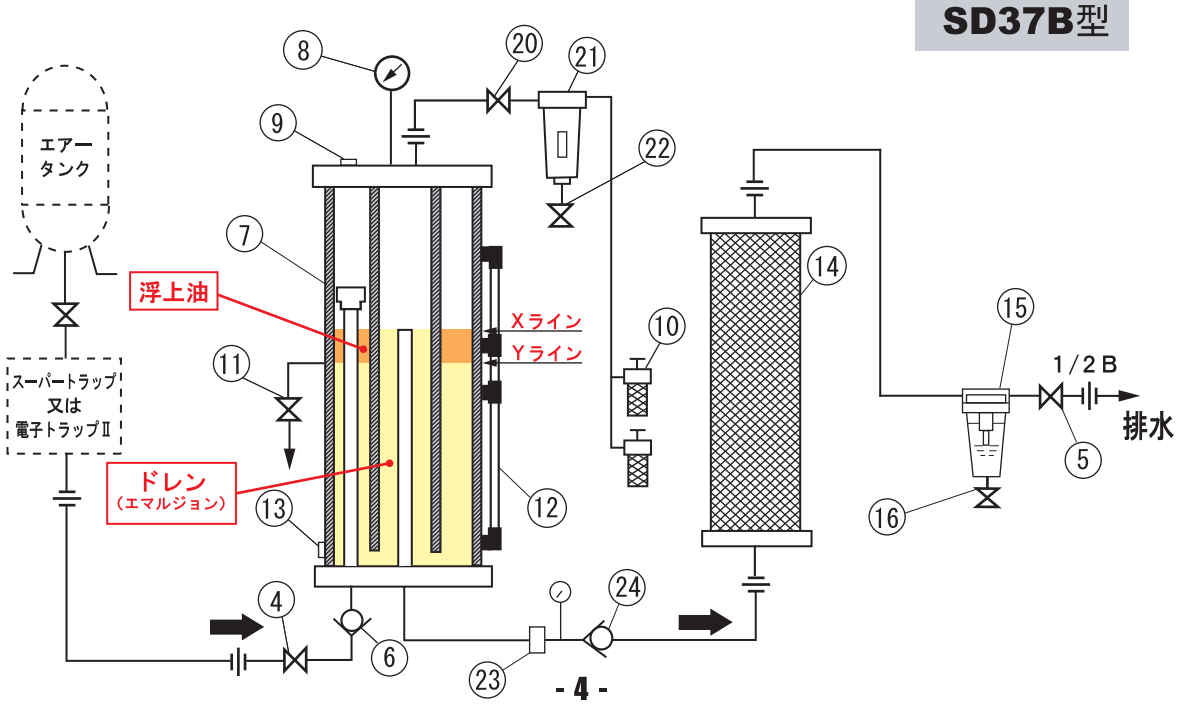
型式 / 仕様		SD37B	SD75B	SD150B	SD220B
最大処理能力		18L/h	36L/h	72L/h	108L/h
処理水の油分濃度		5ppm以下（ｎ－ヘキサン抽出物質）注1			
フィルター槽（本数）		AB槽1本	AB槽2本	AB槽4本	AB槽6本
清水確認槽（本数）		1本			
フィルターの全処理量	油分濃度150ppm時	約27,500L	約55,000L	約110,000L	約165,000L
	300ppm時	約13,750L	約27,500L	約55,000L	約82,500L
処理方式		フィルター方式(フィルターエレメントは焼却可、有毒ガスは出ません。)			
フィルターエレメントの交換方法		槽ごと交換します。槽にはフィルターエレメントが緻密に詰め込んでおりますので、取り外した槽を弊社に返却してください。弊社でフィルターエレメントを詰め替えて貴社へお送り致します。(有償)			
適用エアーコンプレッサー	スクリュー	総合計して37kW以下	総合計して75kW以下	総合計して150kW以下	総合計して220kW以下
	レシプロ	総合計して18kW以下	総合計して37kW以下	総合計して75kW以下	総合計して110kW以下
運転方式		自動運転（エアー圧力でドレンを各槽へ圧送）			
最高使用圧力		ドレン分離槽の圧力計で1MPa以下			
運転圧力		ストレーナ出口（AB槽入口圧力）0.01～0.15MPa（10ページ参照）			
流体及び使用周囲温度		2℃～50℃（但し、ドレン水が凍結しないこと）、凍結防止仕様も有り			
入口・出口口径		Rc1/2（手動ボールバルブ付）			
外形寸法(mm)		844（幅）X385（奥行）X1300（高さ）	585（幅）X591（奥行）X1373（高さ）	825（幅）X591（奥行）X1373（高さ）	1305（幅）X591（奥行）X1423（高さ）
質量(kg)		約90Kg　運転質量　約135Kg	約130Kg　運転質量　約205Kg	約190Kg　運転質量　約325Kg	約250Kg　運転質量　約460Kg
塗装		焼付塗装：若草色(マンセル7.5GY5/4.5)			

（注1）ヘキサン抽出物質は、試料を微酸性にしてヘキサンで抽出を行い、80℃でヘキサンを揮散させて残留した物質の質量を測定する方法です。

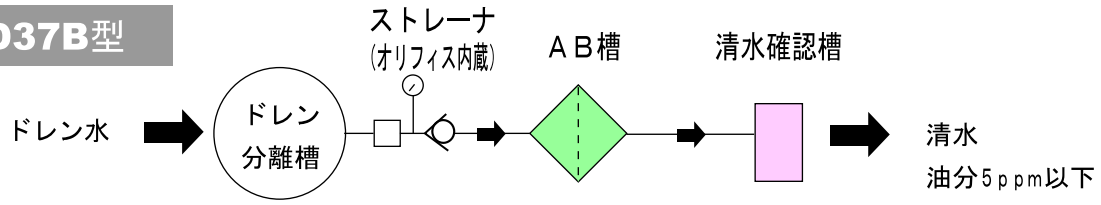
4．フローシートとドレン処理工程

（注）○番はSD37B型の製品図面に合わせています。

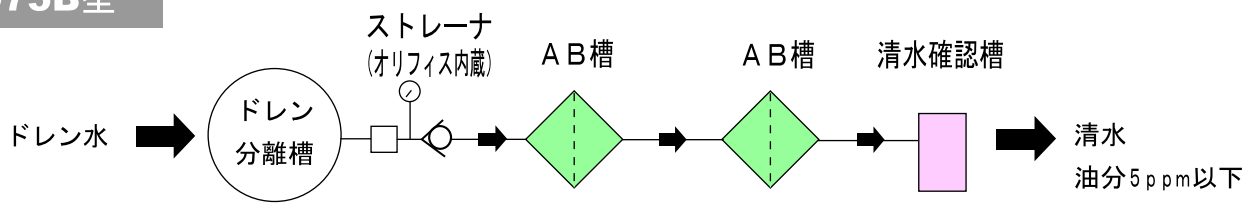
SD37B型



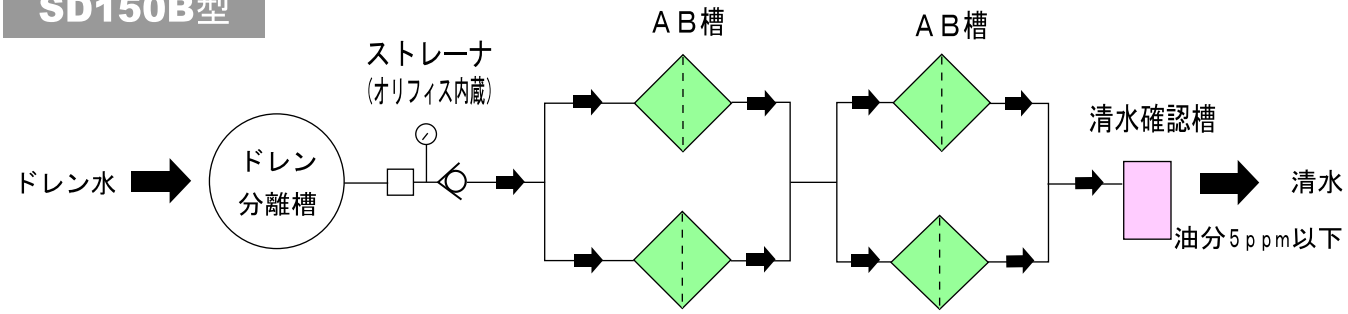
SD37B型



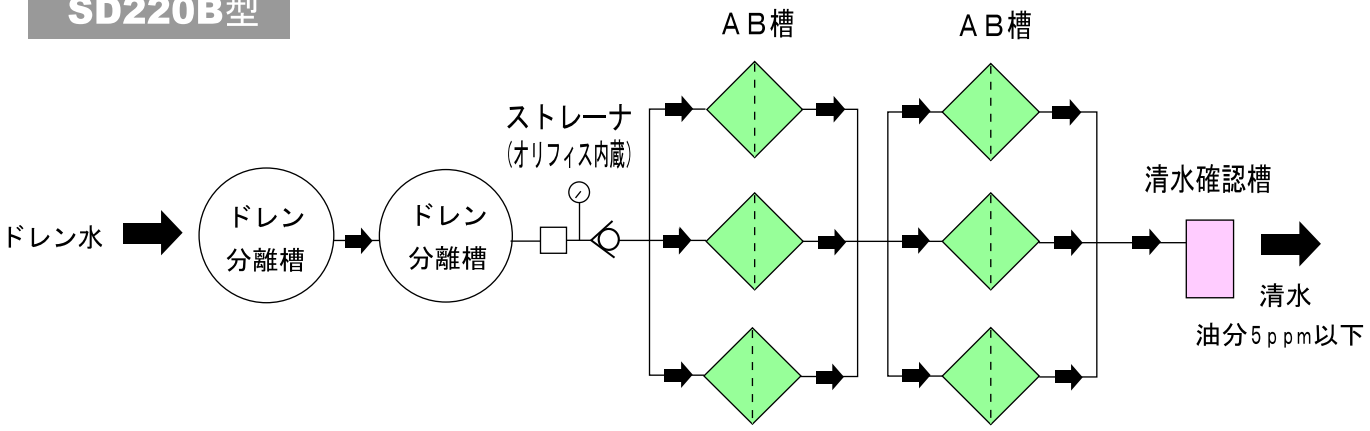
SD75B型



SD150B型



SD220B型



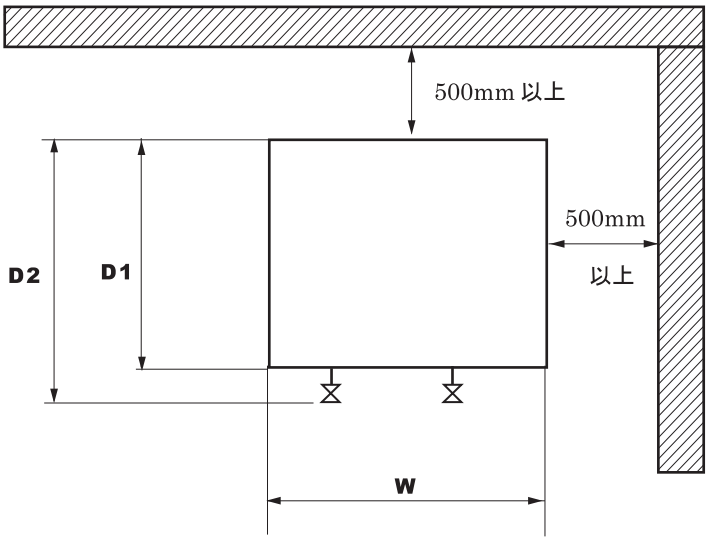
型　式	ドレン分離槽	ＡＢ槽	清水確認槽
ＳＤ３７Ｂ	１槽	１本	１本
ＳＤ７５Ｂ		２本	
ＳＤ１５０Ｂ		４本	
ＳＤ２２０Ｂ	２槽	６本	

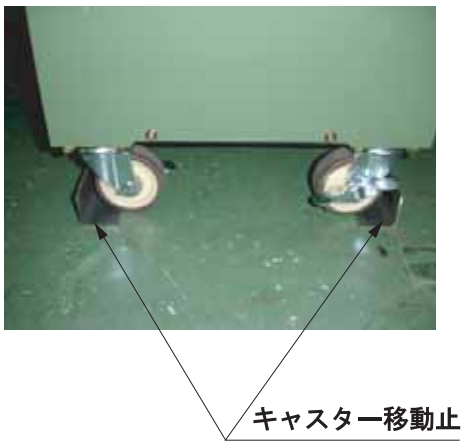
5． 取付注意事項

（1）設　置

① ドレンデストロイヤー(SD型)

(a) 本装置は防水及び防塵構造でありませんので、屋内に設置してください。
(b) 直射日光や直接熱風のあたる場所等は避けて、水平な場所に設置してください。
(c) やむを得ず屋外に設置する場合は必ず屋根等を設けて、雨水対策を施してください。
(d) 保守・点検等を考慮して500mm以上周囲をあけてください。
(e) 天井の高さは、フィルターエレメント槽交換作業時無理が無いよう1,800mm以上の所に設置してください。
(f) キャスターは全てストッパー付きですが設置時には必ずストッパーをかけてください。更に移動止めを確実にしたい時は、キャスターに下図のような移動止め等を施してください。





型　式	D1（mm）	D2（mm）	W（mm）
SD37B	300	385	844
SD75B	507	591	585
SD150B	507	591	825
SD220B	507	591	1305

（２）配　管

①ドレン集合管は15Ａ配管をご使用ください。

②配管は立ち上がらないようにしてください。立ち上げが必要な場合はＩＮ側は５ｍ以内とし、OUT側は０．５ｍ程度にしてください。
※OUT側で0.5m以上の立ち上りが必要な場合は、ご相談ください。

③取付工事の際、本機内に異物等が入り込まないように、洗浄した後配管接続してください。

④保守・点検時を考慮して、ドレンデストロイヤーの入口側、清水出口側はユニオン等で配管してください。

⑤取付口に加重が加わるような場合は、配管サポートを取付けてください。

6．ドレントラップ取付注意事項

（注）電磁式ドレントラップ取付けの際、既設のドレントラップを取外してから取付けてください。
●既設のドレントラップの後にダブルで取付けますと、ドレンが抜けなくなりトラブルの原因になります。

■ SD型ドレンデストロイヤー

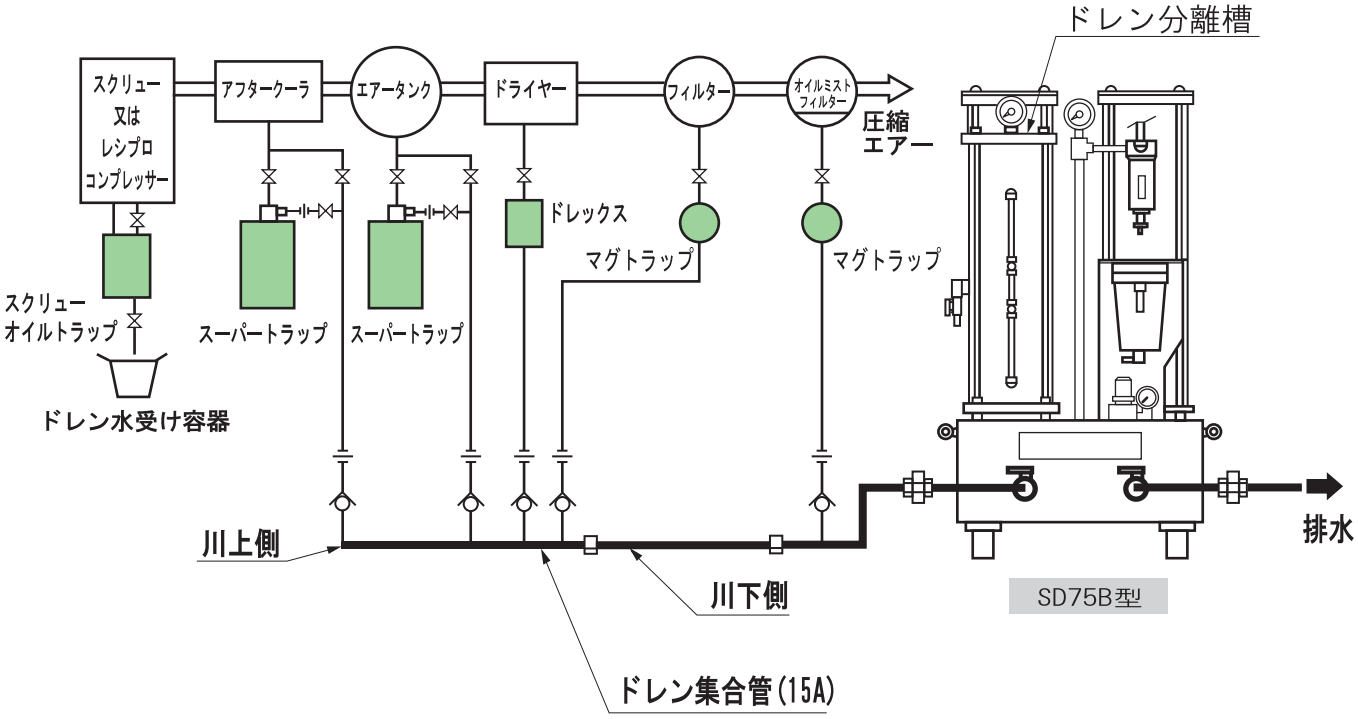
(1) ドレン集合管の一番川上側に必ず電磁式ドレントラップを1～2台以上取付けてください。

(2) ドレン集合管の一番川下側をドレンデストロイヤーのドレン入口側に接続してください。

(3) フロート式ドレントラップ等から排出されるドレンは、ドレン集合管の中間に逆止弁をつけて接続してください。

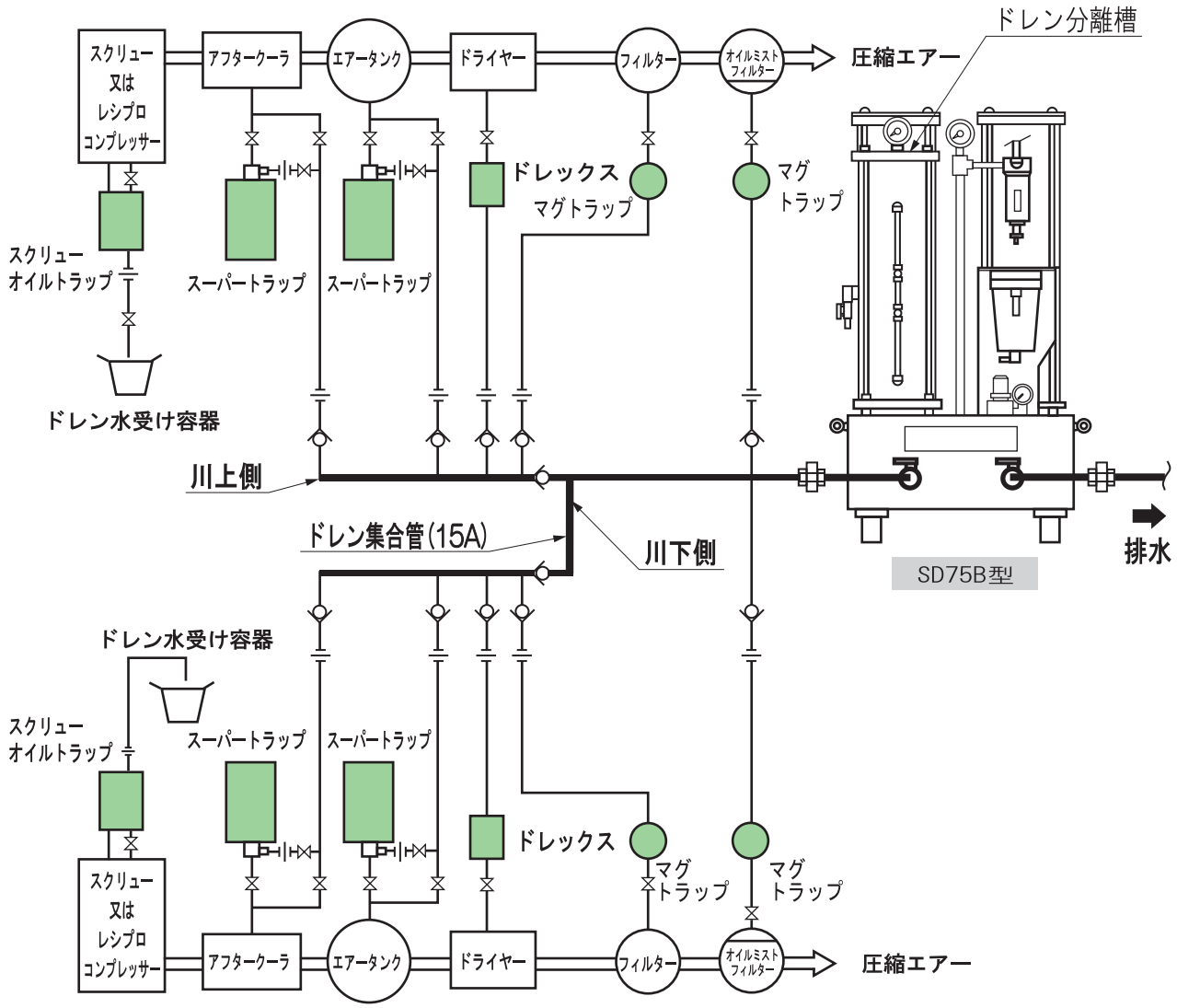
(4) オイルタンクのドレン水は、別容器に溜めて、手動にてドレン分離槽の上部より入れてください。（ドレン注入口プラグ R3/8）
※投入の方法は弊社にお問い合わせください。

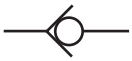
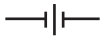
（1）コンプレッサーが1台の場合

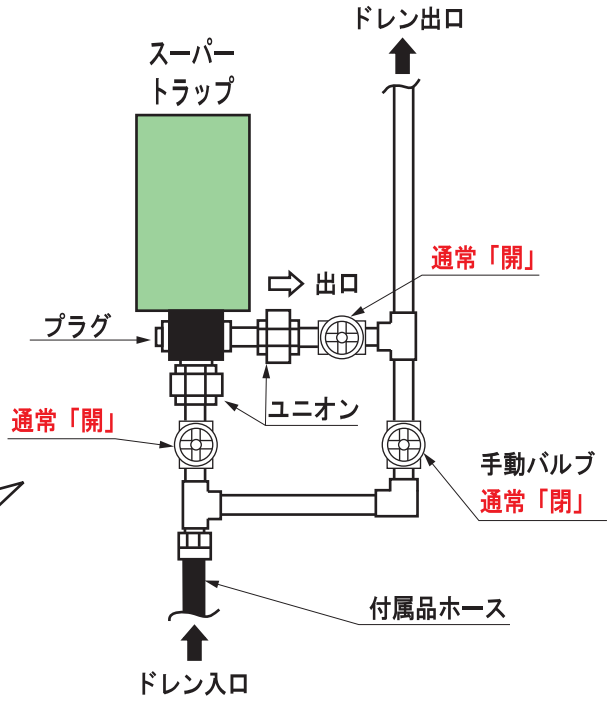


（注）オイルミストフィルターのドレンを接続した場合、ドレンの油分濃度が若干上昇します。

（2）コンプレッサーが複数台の場合



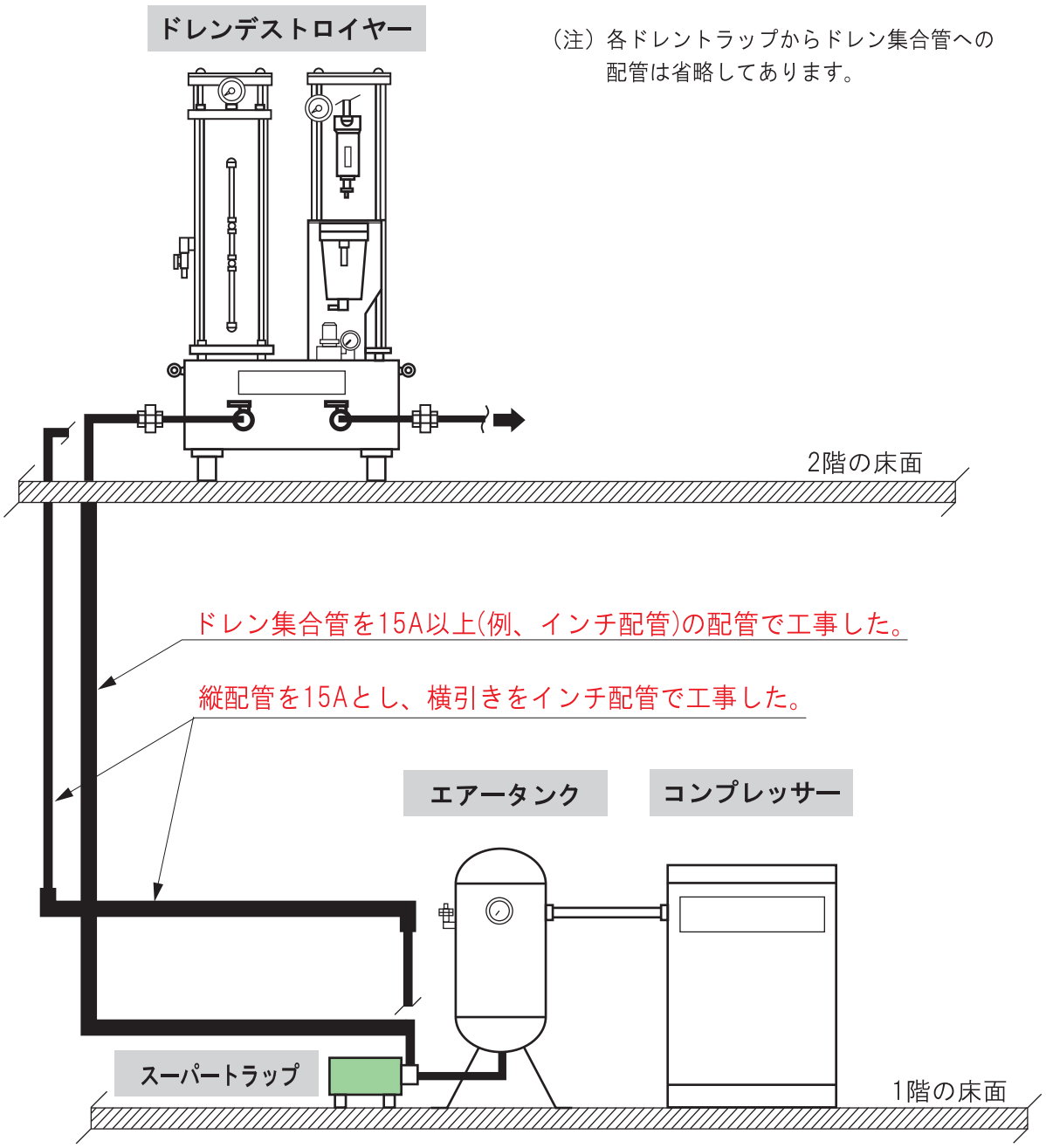
記　号	名　　称
	逆止弁 ドレンの流れ方向
	手動バルブ
	ユニオン



（注）● スーパートラップの入口・出口を配管される場合、右図のようにバイパスを設けられると保守・点検時便利です。

● ドレン出口は180°反対側にもあります、どちらに配管しても構いません。

（3）ドレンデストロイヤー不適当な配管事例



（1）ドレン集合管は１５A配管を必ず使用してください。（配管の内径が大きいとエアーだけが抜け、ドレンが配管内に蓄積され、一度にドレン分離槽に入り込んでオーバーフローするため。）

（2）大きい口径の配管から15Aにおとして配管しないでください。（1項同様）

（3）ドレン集合管は（１）～（２）項を充分考慮して、配管が複雑にならない様に工事してください。

（4）設置及び配管施工はP7～P9をご参照ください。

7. 運　　転

（1）本機の各バルブ開閉確認

① ⑪浮上油取出しバルブが『閉』になっているか確認してください。（ドレン分離槽）
② ミスト除去フィルターエアー入口の⑳バルブが『開』になっているか確認してください。
③ ミスト除去フィルター下部の㉒ドレン抜きバルブが『閉』になっているか確認してください。
④ ドレンデストロイヤーの④ドレン入口、⑤清水出口のバルブを『開』にしてください。

（2）各接続のドレントラップ、バルブ開閉及び電源確認

① 各トラップの入口バルブを『開』にしてください。
② 電磁式トラップの電源を入れてください。（ランプ等で確認できます。）
③ 電磁式トラップのテストボタンがある時は、テストボタンで動作確認をしてください。
④ 運転中、継手及びホース等から漏れが無いか確認してください。

（3）運転時圧力計の確認

ドレン分離槽上部・ストレーナ・AB槽のいずれの圧力計も常時０ＭＰａ、接続しているドレントラップが動作した時、圧力計が上昇し、停止すると徐々に０ＭＰａに戻るのが正常です。一般的な圧力計の目安は下記の通りです。

	ドレン分離槽	ストレーナ	AB槽上部
スーパートラップ	0.15～0.3MPa	0.02～0.15MPa	0.02～0.15MPa
電子トラップⅡ 小型トラップ	0.01～0.1MPa	0.01～0.1MPa	0.01～0.1MPa

上記圧力は、タイマー設定（流入する圧縮空気量）、気象条件（流入するドレン量）、コンプレッサー側の圧力等により変動しますので、参考値とお考えください。ドレン分離槽の水位が正常に保たれ、処理水が排水できていれば問題ありません。
圧力計が常時振れている場合は、接続しているドレントラップがエアー漏れをしている可能性があります。ご確認の上、修理・交換してください。

⑧ドレン分離槽圧力計

ＡＢ槽圧力計

8．AB槽フィルターエレメント寿命判定

■ **AB槽のフィルターエレメントの寿命を判定するにあたっては、処理水の油分濃度を150ppmと300ppmとしています。その場合、全処理量は下表の通りです。**

ドレンデストロイヤー　AB槽フィルターエレメントの寿命判定

型　式	ドレン水の油分濃度	処理後の油分濃度	AB槽の寿命		AB槽の寿命の判定方法
SD37B	ドレン水は分離槽でエマルジョン水と浮上油に自動的に分離されます。	5ppm以下	150ppm	全処理量　約27, 500L １日のドレン発生量が約３０Ｌの時、９２０日の寿命です。	1. ＡＢ槽の上部のフタは透明ですので上部より見てフィルターエレメントが汚れていたら交換してください。 2. 清水が排水されない時は、ＡＢ槽の底部が油分及びスラッジ等で詰まっている場合が有りますので調査の上、交換してください。 3. 処理水が清水にならなくなった時、又は処理水に油が少しでも混じるような時、交換してください。 ■ 日常の管理は保守・点検欄をご参照ください。
			300ppm	全処理量　約13, 750L １日のドレン発生量が約３０Ｌの時、４６０日の寿命です。	
SD75B			150ppm	全処理量　約55, 000L １日のドレン発生量が約８０Ｌの時、６８８日の寿命です。	
			300ppm	全処理量　約27, 500L １日のドレン発生量が約８０Ｌの時、３４４日の寿命です。	

型　式	ドレン水の油分濃度	処理後の油分濃度	AB槽の寿命		AB槽の寿命の判定方法
SD150B	ドレン水は分離槽でエマルジョン水と浮上油に自動的に分離されます。	5ppm以下	150ppm	全処理量　約110,000L 1日のドレン発生量が約160Lの時、688日の寿命です。	1. ＡＢ槽の上部のフタは透明ですので上部より見てフィルターエレメントが汚れていたら交換してください。 2. 清水が排水されない時は、ＡＢ槽の底部が油分及びスラッジ等で詰まっている場合が有りますので調査の上、交換してください。 3. 処理水が清水にならなくなった時、又は処理水に油が少しでも混じるような時、交換してください。 ■ 日常の管理は保守・点検欄をご参照ください。
			300ppm	全処理量　約55,000L 1日のドレン発生量が約160Lの時、344日の寿命です。	
SD220B			150ppm	全処理量　約165,000L 1日のドレン発生量が約240Lの時、688日の寿命です。	
			300ppm	全処理量　約82,500L 1日のドレン発生量が約240Lの時、344日の寿命です。	

（注1）ＡＢ槽の寿命はドレン水の油分濃度に左右されます。

9．保守・点検

点　検　項　目	確認方法	点　検　周　期				備　考
		毎日	1ヶ月毎	3ヶ月毎	1年毎	
清水確認槽での清水確認	目　視	○		○ 油分測定		・油分の測定は有償 ・油が浮いていたり、水が濁っていたら洗浄
AB槽のフィルターエレメントの汚染状態	目　視	○				上部透明板より確認 P.12参照
圧力計の確認	目　視	○				どの圧力計も常時０、ドレントラップが動作した時圧力が上昇し、停止後０に戻ることを確認
ミスト除去フィルターケース内のドレン抜き	手　動		○ 注２			たまり具合を見てこまめに抜く
ミスト除去フィルター	目　視			○		汚れている、またはエアーの抜けが悪い場合交換
エアー調整弁のサイレンサー目詰まり及び汚れ具合	目　視				○	汚れている、又はエアーの抜けが悪い場合交換
ドレン分離槽の浮上油抜き取り	手　動			○ 注３		注５ Ｙラインまで溜まっていたら抜く P.12参照
ドレン分離槽	（注）５年に１回を目安にドレン分離槽清掃を推奨いたします。 分解清掃は、弊社サービスにご依頼願います。（有償）					
ストレーナ（オリフィス内蔵）	分　解	本体のドレン入口バルブを閉めて分解してください。		○ 注４		分解清掃

（注２）ミスト除去フィルター内のドレン抜き（１ヶ月毎）は目安です。レベルゲージを見てドレンが溜まていたら抜き取ってください。
（注３）ドレン分離槽の浮上油抜き取り（３ヶ月毎）は目安です。各メーカーのコンプレッサーによって異なりますので注意してください。
（注４）ストレーナの分解清掃（３ヶ月毎）は目安です。汚れがひどい場合は早めに分解清掃をしてください。
ストレーナエレメントは、清掃しても汚れが落ちない場合、又は切れていたら交換してください。
（注５）抜き取ったドレンや浮上油（なま油）は別容器に溜めて、産業廃棄物処理に関する各種法令に遵守した適切な処理をしてください。

（1）ドレン分離槽内の浮上油の抜き取り

① レベルゲージのXラインからYラインまで浮上油（なま油）がたまったら浮上油取出しバルブより、浮上油を抜いてください。

② 浮上油を抜かないと、ＡＢ槽へ入り込む場合があり槽のフィルターエレメントの寿命が著しく短くなります。

③ コンプレッサーのオイルが異常に減少する場合はドレン分離槽に多量のオイルが流れ込みますのでご注意ください。（コンプレッサーメーカにご相談ください。）

（浮上油を受けるペール缶等の容器をご用意ください。浮上油取出しバルブを開いている時に、接続しているドレントラップが作動しますと、飛散する時がありますので、ドレン入口バルブを一旦閉じて行う等注意してください。）

（注）コンプレッサーのオイルの管理は充分に行ってください。
酸化したオイルによりドレンが変質し処理が困難になる場合があります。

（2）ミスト除去フィルター内ドレン抜き取り

① ㉑ミスト除去フィルターのレベルゲージを見てドレンが溜まっていたら下部の㉒ドレン抜きバルブより抜き取ってください。

（ドレンを受ける容器をご用意ください。ドレン抜きバルブを開いている時に、接続しているドレントラップが作動しますと、飛散する時がありますので、ドレン入口バルブを一旦閉じて行う等注意してください。※ドレン水は別処理してください。）

（注）ケース内が満水状態になりますと、エアー調整弁のサイレンサー部よりドレンが吹き出しますので注意してください。

（3）清水確認

① 処理水が清水かどうか、⑮清水確認槽にて毎日確認してください。

② 処理水の油分濃度を測定される場合は、⑯清水抽出バルブより採取してください。

（注）清水採取用の容器は充分洗浄してから約１Ｌ採取してください。

※清水確認槽容器が水アカ等で見えにくくなった時は清掃してください。
ドレン入口バルブを閉じてから清水確認槽を付属のレンチで開き、きれいなウエスで拭くか水洗いしてください。（透明容器はきつく締めない事）

（4）フィルターエレメント（AB槽）汚れ具合と交換目安

●AB槽の上部透明板より、フィルターエレメントの汚れ具合を確認してください。

① 新品の状態では、A写真のように白い状態です。

② 清水がきれいでも、B写真のように上面が茶褐色に油で汚れてきたら内部も油を吸着している状態です。フィルターエレメントの交換をご検討ください。

③ C写真のように上面に生油が浮いてきたら、内部のエレメントも完全に油を吸着しており飽和状態を示します。至急交換してください。

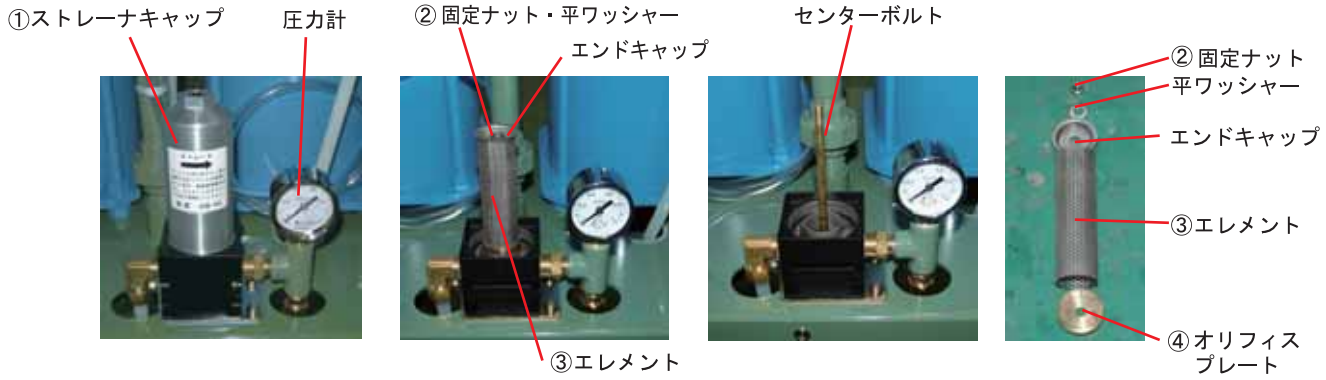
A 写真

B 写真

C 写真

（５）㉓ ストレーナ分解洗浄方法

(1) ④本体のドレン入口バルブを閉めてください。
(2) ストレーナキャップを反時計回りに回して取り外します。
(3) 固定ナットを緩めて、エンドキャップを取り外します。
(4) エレメントをセンターボルトより取り外します。
(5) オリフィスプレートをセンターボルトより取り外します。
(6) 清掃を行います。
※組み立て手順は逆の手順になります。
※バルブ閉後、残圧が０になったのを確認してから作業を行ってください。



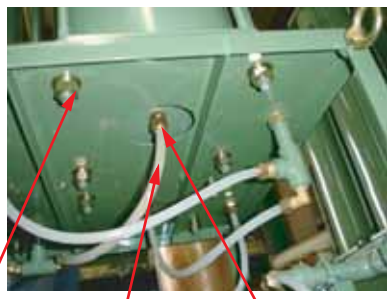
ストレーナ（オリフィス内蔵）

（６）AB槽の交換方法

フィルター交換は、コンプレッサー停止時を推奨します。
コンプレッサー稼働中に作業する時は、入口バルブを開けない様、作業札等で注意を促してください。

(1) 本体の④ドレン入口バルブを閉めてください。
(2) ドレンデストロイヤーの前後の側板を取り外してください。
(3) 上部の②袋ナットをゆるめて①チューブを取り外してください。
(4) 下部の④袋ナットをゆるめて③チューブを取り外してプラグをしてください。
※下部のチューブを外す前に上部キャップをすることをお奨めいたします。
(注1) 槽の下部よりドレンが出ますのでドレン受けをご用意ください。
(5) 下部の⑤槽取付ナット4ヶ所取り外してください。
(6) 槽を本体より取り外してください。
(注2) フィルターエレメントはドレン水を含み重くなっています。
(注3) 使用済槽を返却される場合は、オイルパン等の上でドレンを抜いた後、上下に必ずキャップをしてください。
抜いたドレンは分離槽に入れて処理してください。
(7) 予備槽を取り付けてください。
(8) 使用済槽は、ドレンを抜いた後、キャップをし、予備槽が入っていたダンボール箱に入れて、槽ごと弊社に元払いにてご返却ください。

ＡＢ槽



この状態で発送します。

槽を返却される場合は、このダンボール箱を利用して送料御社持ちにて返却発送願います。

AB槽のリサイクルについて

(1) 弊社に返却されてきた槽は、汚れたフィルターエレメントは槽(筒)より抜き出し、責任ある産業廃棄物処理業者に引き渡しております。

(2) 槽(筒)、押え板、透明板、長ボルト等の再利用できるものは、洗浄、再加工等を施して再利用しております。弊社は地球環境に優しいリサイクル活動をしておりますので、何卒ご協力のほどお願い致します。

10. 故障とその対策

故障の状態	原因	対策
■ 処理水の白濁又は汚染。	・コンプレッサーオイルが劣化（酸化）している。	・オイルを全量交換してください。
	・AB槽フィルターエレメントの特殊処理剤の剥離。	・１～２週間で透明になります。
	・ドレン分離槽内になま油が多量に入りこんでいる。〔コンプレッサーのオイルセパレータ又はオイルリングの不良〕	・浮上油の抜き取り。 ・コンプレッサーメーカーにご相談。
	・コンプレッサードレン以外の廃液を投入している。	・本装置はエアーコンプレッサー専用の油水分離装置ですので絶対に入れないでください。
	・ドレントラップからエアーが出放し。（連続してドレンを排出している）	・ドレントラップの修理又は交換。 ・タイマーの排出サイクル及び排出時間の調整。
	・ミスト除去フィルターのエアー入口バルブが閉まっている。	・エアー入口バルブを全開にしてください。 注（ドレン分離槽内のエアー圧力調整用のため重要です。）
	・AB槽フィルターエレメントの寿命。	・AB槽の交換
■ 処理水が出ない。又は、非常に出がわるい。	・AB槽フィルターエレメントの寿命。	・AB槽の交換
	・ストレーナ（オリフィス内蔵）の詰まり。	・分解清掃
	・配管の目詰まり。	・異物の除去及び清掃
	・ドレントラップの故障	・故障箇所の修理又は交換。
	・清水出口のバルブが閉まっている。	・開く。
■ 槽の上部、下部からの漏れ。	・チューブ取付ナットのゆるみ。	・ナットの増し締め。
	・槽パッキンの不良。	・交換
	・チューブの破損又は劣化。	・チューブ及びナット、スリーブの交換。
■ エアー調整弁のサイレンサーからのドレン漏れ。	・ミスト除去フィルターのケース内にドレンが溜まっている。	・ドレンを抜き取る。
ドレン分離槽水位異常 ■ レベルゲージの最上部までドレンが溜まっている。	・清水出口のバルブが閉まっている。	・開く。
	・ストレーナ（オリフィス内蔵）の詰まり。	・分解清掃
	・AB槽フィルターエレメントの寿命。	・AB槽 の交換。
	・ドレントラップの不作動。 ・タイマーサイクル時間が長すぎる。	・ドレントラップの修理又は交換。 ・タイマーの排出サイクル及び排出時間の調整。
	・ドレン分離槽の噴出パイプ以降の詰まり。	・清掃

11. 凍結防止仕様ドレンデストロイヤー

（1）仕 様

ドレンデストロイヤー 型　　式	SD37B-H	SD75B-H	SD150B-H	SD220B-H
温風ヒーター型　式	SF-193A			
電 源・周 波 数	AC100V　50/60Hz			
加　温　方　式	電気ヒーター、サーキュレータ式			
温 度 調 節 方 式	バイメタル式温度調節器内蔵			
温風ヒーター消費電力	200W			
安　全　装　置	加熱防止サーモ、温度ヒューズ			
使 用 周 囲 温 度	-10 ～ 50℃			
取　付　個　数	1個	1個	1個	2個
温風ヒーターの質　量	850ｇ/台			
温風ヒーター外形寸法	170mm(横)×75mm(幅)×90mm(高さ)			

（2）作　動

① ドレン水が凍結の恐れがある時に、ドレンデストロイヤーの前化粧板に付いている温風ヒーター用のトグルスイッチをＯＮさせてください。

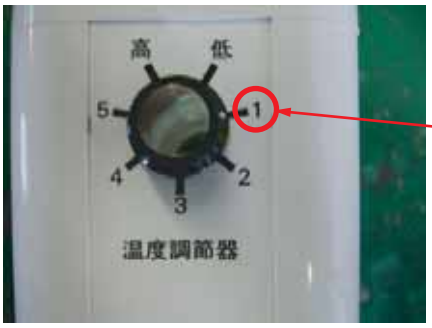
② 外気温が10℃になりますと、温度調節器によって自動で温風ヒーターが動作します。
外気温が12～13℃で自動で停止します。（バイメタル式のため、若干の温度誤差があります。）

③ 冬場は本体カバー(幌)のチャックは完全に閉めて温風ヒーターをご使用ください。

④ 温風ヒーター出荷時の設定

温度調節器の目盛	1 に設定（10℃でON）
温風ヒーター本体スイッチ	送風・ヒーター同時自動運転にセット（下側）

切換スイッチ



温度調節器

（3）注意事項

① 冬場以外の凍結の恐れがない場合は温風ヒーターの電源を切ってください。

② 必ず漏電ブレーカーを取り付けてください。(定格５A)

③ 夏場本体カバー(幌)内部が40℃以上になる場合はカバー(幌)を取り外してください。

④ 槽の交換時は温風ヒーターの元電源を切ってから行ってください。

⑤ ドレンデストロイヤーの入口までの配管及び出口の配管に凍結防止帯(市販品)を取り付けてください。

※長期間停止後の再使用時、最初だけ多少の煙が出る時がありますが問題はありません。

凍結防止仕様**SD37B-H**型
カバー仕様**SD37B-C**型

凍結防止仕様**SD75B-H**型
カバー仕様**SD75B-C**型

凍結防止仕様**SD150B-H**型
カバー仕様**SD150B-C**型

凍結防止仕様**SD220B-H**型
カバー仕様**SD220B-C**型

12. 参考資料

■ エアーコンプレッサーのドレン発生量

条件：

吸入空気温度	30℃
吸入空気湿度	80%
圧縮空気圧力	0.7MPa
圧縮空気温度	10℃

kW数 ＼ ドレン量	L/min	L/10hour
37（50 馬力）	0.14	84
75（100 馬力）	0.28	168
150（200 馬力）	0.56	336
225（300 馬力）	0.84	504

感動をもたらす
省エネ、環境関連機器をデザインする

株式会社フクハラ

本社·工場　〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西 1-15-5
TEL 045(363)7373(代表)　FAX 045（363）6275
URL http://www.fukuhara-net.co.jp
E-mail：eigyo@fukuhara-net.co.jp